



マイナ保険証の利用について

当院では、マイナンバーカードを保険証として利用していただけるよう、オンライン資格確認システムを導入しています。

窓口へは診察券と共に提示してください。

2024年12月2日から新たな保険証は発行されません。

マイナンバーカードの保険証利用にはさまざまなメリットがあります。ぜひ、マイナンバーカードの取得と保険証の利用登録をお願いします。

メリット.1

質の高い医療が可能に

患者さんの同意のもと医師が「特定健診等情報」「診療/薬剤情報」の閲覧ができ、より多くの情報を元にした診療や服薬指導を行うことができます。

メリット.2

自身の情報が閲覧できる

マイナポータルで自身の「特定健診情報」「薬剤情報」「医療費通知情報」が閲覧できます。また、マイナポータルを通じた医療費通知情報の自動入力で、確定申告の医療費控除が簡単になります。

メリット.3

限度額適用認定証の準備が不要

入院などで高額な医療費になった際、これまでは限度額適用認定証の取得が必要でしたが、同意いただける場合は、手続きなしで限度額を超える支払いが免除されます。

注意事項

- マイナンバーカードを健康保険証としてはじめて利用する場合は、登録が必要です。事前の登録については右記のデジタル庁 マイナポータルホームページで確認ください。
- 各種医療証（公費負担医療受給者証・乳幼児医療費証・介護保険証・特定疾病療養受療証等）の確認はマイナンバーカードで行うことができないため、すべてご持参ください。
- マイナンバーカードを健康保険証として利用する場合、暗証番号または顔認証による本人確認が必要となります。詳しくは、右記の厚労省のホームページをご確認ください。



デジタル庁
マイナポータルHP



厚労省
ホームページ

新入職医師

Introducing new doctors

紹介

病理医って何？と思われる方も多いと思いますが、病理医は患者さんの体より採取された病変の組織や細胞を観察しその診断を行っています。直接お会いする機会は少ないと思いますが、組織や細胞の正しい診断を行うことで、各々の患者さんに見合った最適な治療を提供するために頑張りたいと存じます。

病理診断科 佐久間 淑子

私は神戸に生まれ、神戸で育ち、神戸大学医学部を卒業して麻酔科に入局し、これまで主に神戸大学病院と兵庫県各地の県立病院で働いてきましたが、この度、独自の古い歴史を持つ済生会病院にご縁があり、奉職できる機会を持てましたことを大変嬉しく思っております。どうかよろしくお願い申し上げます。

麻酔科 石田 真理

高齢で既往の多い患者さんの手術や緊急手術が年々増えているので、安全かつ快適に手術を受けていただけることを第一に心がけています。地域の皆さまに貢献できるよう、術者やスタッフと協力しながら麻酔管理に取り組んでいきたいと思っています。

麻酔科 篠原 康介

済生会兵庫県病院 広報誌

なでしこ VOL.80

SEPTEMBER 2024



社会福祉法人 恩賜財団 済生会兵庫県病院

〒651-1302 兵庫県神戸市北区藤原台中町5丁目1番1号 TEL. 078-987-2222 (代表)



https://saiseikai.info

済生会兵庫県病院 広報誌

なでしこ NADESHIKO

SEPTEMBER 2024

VOL.80

2024年9月発行

特集

Special Feature



総合支援センター

General Support Center



社会福祉法人 恩賜財団 済生会兵庫県病院

診療受付時間 8:30~11:30

休診日 土・日・祝・年末年始

●発行所／済生会兵庫県病院

●編集長／尾古 俊哉

●編集／広報委員会



地域医療連携の部署と 入退院支援の部署が統合

今年発足した
部署です！



本年4月より、医療福祉事業室と入退院支援センターを統合し、「総合支援センター」を発足しました。今まで、2部門が独立して行っていた地域連携や福祉相談、入退院支援、ベッドコントロール、看護相談などの業務を一本化することで、情報の集約による効率的かつ継続的な支援に取り組むことができるようになりました。

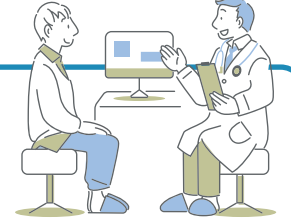
コンセプトは、「患者さん・ご家族、チーム医療、地域医療を総合的に支援する多職種協働」です。具体的には、入院前の外来段階でリスク評価を行い、入院前から退院後までの支援を多職種で継続的に実施します。これにより、患者さんの身体的、精神的、社会的な問題に対して早期に対応でき、より早く住み慣れた場所に戻る支援に繋がります。また、病床管理を一括して行うことで、緊急入院のスムーズな受け入れも可能となります。

「総合支援センター」の発足による、窓口の一本化、情報の一元化、問題の早期発見と対応、医療者の業務負担軽減などのメリットを生かし、今後もさまざまな機能充実に努めてまいります。ご支援ご指導の程よろしくをお願いします。

総合支援センター長 松田 祐一



かかりつけ医をもちましょう！



済生会兵庫県病院は、地域の基幹的な病院として高度医療、救急医療に取り組んでいます。軽い風邪症状や腹痛、また慢性疾患の日常的な診療の患者さんが多数受診されると、その機能を本当に必要な患者さんの治療に活かすことができなくなってしまいます。

そこで地域みなさんにお願ひがあります。お近くの診療所、クリニックの中で、ご自分に合った「かかりつけ」の先生を決めていただきたいということです。「かかりつけ医」をもつということは、身近なお医者さんとして病気を治療し、必要に応じて他の医療機関へ紹介してもらうのはもちろんのこと、日頃から、健康増進や病気の予防などについて気軽に相談できるアドバイザーが身近にいるということです。普段から、あなたやご家族のことをよく知っている「かかりつけ医」が近くにいると、いざというときも安心です。また、今後さらに増加が予想される「生活習慣病」を防ぐためにも有効なことです。

済生会兵庫県病院と地域の医療機関との連携

当院は、2016年7月27日に兵庫県知事より「地域医療支援病院」の承認を受けました。以来、地域の医療機関の先生方と共に、地域みなさんの医療の継続性に重点を置き、医療連携の組織づくりや、紹介・逆紹介の推進、勉強会の開催等を行っております。

連携登録医療機関のご紹介

当院では、患者さんが地域で安心して継続した医療を受けられるよう、また、医療を必要とする患者さんのニーズに応え、適切で切れ目のない医療を提供できるよう、当院と連携・協力して安全で質の高い医療を提供している医療機関を「連携登録医療機関」として登録する制度を設けています。

QRコードより、一般の患者さんを対象に保険診療を行っている連携登録医療機関の一覧をご覧ください。ぜひ、一度ご確認ください。

こちらからご覧ください



総合支援センター



GENERAL SUPPORT CENTER

取り組み

1

地域医療連携

Regional Medical Cooperation

地域の医療機関・介護施設からの紹介患者さんが、スムーズに受診・入院・検査ができるように受入調整を行っています。また、ご紹介いただいた患者さんの受診報告や返書管理なども行います。必要に応じて、当院から他の医療機関への診察予約や転院調整なども行っています。

そのほか、地域の医療従事者に対する研修会等を主催するなど、他の医療機関に対して当院の情報を広め、より患者さんを紹介いただきやすい環境を整えています。



取り組み

2

入退院支援

Hospital admission and discharge support

入院前から患者さんのリスク評価を行い、退院後まで継続的なサポートを行っています。

患者さんが安心して入院できるよう、入院準備に関することや、手術・検査の流れの説明を行うと共に、入院中の不安や困り事などの相談にも応じています。退院時には、患者さんの希望や状況に合わせて調整を行い、在宅生活への移行や、住み慣れた場所への帰宅を希望される方のためのサポートも行っています。

また、看護相談として、在宅療養や意思決定の支援、疾患に対する処置の方法や日常生活上の工夫などについて相談に応じています。日常生活で困っていることや悩んでいることがありましたらお気軽にご相談ください。



取り組み

3

病床管理

Bed management

すべての病棟を見える化し、緊急入院を迅速に受け入れるために効率的な運用・調整を行い、病床を最大限に活用できるよう努めています。毎朝の緊急入院に必要なベッドの確認や予定入院患者の受け入れ、病棟移動等の調整を行っています。また、多職種でミーティングを開催し、有効な病床利用についての情報を共有しています。

患者さんの退院時には、退院調整看護師や医療ソーシャルワーカー（MSW）と協力して、退院調整状況の確認をしながら、必要な支援を提供できる体制を整えます。



取り組み

4

医療福祉相談

Medical and welfare consultation

患者さんが安心して療養できるよう心理的・社会的問題の相談、医療の受け方・医療機関の情報提供などの受診や受療の援助、療養後の社会復帰が円滑に進むように復職・復学などの支援を医療ソーシャルワーカー（MSW）が行っています。

また、医療費や生活費に困っている場合、福祉制度や保険等の諸制度の活用や、必要に応じて無料低額診療事業（医療費軽減制度）の利用を支援しています。

済生会独自の活動として「なでしこプラン」（生活困窮者支援事業）を実施しており、今後は地域連携士としての活動にも注力していきます。

